

2019年9月12日(木) 19:00 開演 ハーモニーホールふくい 大ホール・ステージ
「英国一流アーティストによる スペシャル・ステージ・コンサート」

プログラム・ノート

テキスト：笠松泰洋(作曲家／平成30年度文化交流使)

◆グレゴリー一家と音楽

私は、平成30年度の文化庁文化交流使という立場に指名され、幾つかの国で自作のコンサートを開くことになった。その中のひとつ、イギリスでのコーディネーターとして文化庁が紹介してくれた方が、グレゴリー与子美さんだった。与子美さんの息子さんは、世界的ア・カペラ男声コーラスであるザ・キングズ・シンガーズのテノール歌手のジュリアン・グレゴリー氏だった。ザ・キングズ・シンガーズは平成30年にも来日公演をした。私はそれを聴いて、素晴らしいソロを歌い、かつ、コーラスを牽引する柱として活躍するジュリアンの素晴らしさにすっかり魅了された。運良くスケジュールが合って、彼はロンドンでの私のコンサートに出演し、私のラテン語の歌と日本語の歌を歌ってくれた。ピアノは、お父様のジョナサン・グレゴリー氏が演奏してくれた。

ロンドンでのコンサートでは、ジュリアンの柔らかく大らかな声の響きと音楽性のお陰で、私の歌が言語に関係なくイギリスの聴衆に伝わったのがよく分かった。また、ジョナサンのピアノは驚きだった。微妙な和音の変化を、微妙な心情の変化として、まるで作曲家本人が語るかのような演奏だった。イギリスの伝統と力量を心底感じた日々となった。

そのグレゴリー御一家が、今年、日本で、ジュリアンのソロを中心としたコンサートをする、ということになり、福井でも開かれる運びになった。「ハーモニーホールふくい」には、パイプオルガンとチェンバロもある。ジョナサンはオルガンとチェンバロの名手なので、彼が本領を發揮することが出来る会場なのだ。更に、イギリスで活躍するソプラノ歌手のヴィクトリア・メテヤード氏も加わる。プログラムは以下のような構成になる。

◆当日のプログラムについて

コンサートの幕開けはオルガンの曲、「**ウェストミンスター**の鐘」。20世紀前半に活躍したフランスのオルガン奏者で作曲家のルイ・ヴィエルヌの曲で、ホールオルガンを満喫する。次にイギリスを代表する17世紀の作曲家、パーセルの「**トランペットを吹き鳴らせ**」を歌のデュエットで。次はシェイクスピアの最後の戯曲「テンペスト」の中の妖精エリアルエリールの歌である「**ミツバチが蜜を吸うところ**」。作曲はイギリスの愛国歌「ルール・ブリタニカ」の作曲者で18世紀に活躍したトーマス・アーン。次はドイツ人でありながら、生涯の多くをロンドンで過ごしたヘンデルの「**朝が夜に忍び寄るように**」。これもシェイクスピアの「テンペスト」の台詞を歌詞にしたものである。

次に、19世紀のイギリスのオルガニストで作曲家、マテュー・カミッジのオルガン曲「**ガヴォット**」、そして20世紀のイギリスの代表的作曲家の1人、ウィリアム・ウォルトンの「**やさしき唇に触れて別れなん**」。これは彼の映画音楽「ヘンリー5世」から独立した音楽作品としてオーケストラにアレンジされた組曲の中の1曲。当日はこれをオルガンソロで。

次は、ロンドンで歌われた私の歌曲から「**感傷旅考**」。これは福井在住の詩人、川上明日夫さんの詩に19歳の私が作曲したもの。藤島高校の校内合唱コンクールの課題曲を作ってみないか、と当時の音楽の先生だった故山口英良先生が声をかけてくれたのだった。それがなければ生まれなかった曲である。次に是枝裕和監督の映画「**ワンダフルライフ**」のために作った、「**ワンダフルライフのためのレクイエム**」。次の「**いのちとは**」は仙台出身のソプラノ歌手、広瀬奈緒さんが、震災の犠牲者の方を想う歌を、と私に委嘱し、俵万智さんが自分の作品から5つの短歌を選んでくれて、それに作曲した2012年の曲。最後の「**ラクリモーサ**」は、ラテン語のレクイエムの式文を歌詞として、蜷川幸雄演出の「**王女メディア**」のために2005年に作曲した曲

後半は親しみやすいイギリスの歌が中心である。最初の歌「**恋する若者たち**」はシェイクスピアの「お気に召すまま」の中で、結婚式の前に 2 人の子供によって歌われる楽しい恋の歌。多くの作曲家がこの歌詞で歌を作っているが、今日のものは 20 世紀前半に活躍したイギリスの作曲家、ロジャー・キルターによるもの。次の曲は、アイルランド民謡の「**柳の庭のほとり**」を 20 世紀の代表的なイギリスの作曲家、ベンジャミン・ブリテンがアレンジしたもので、未熟さ故に恋の機会を逃した若者の歌。次の「**スコッツ・ソング**」は、現代のイギリス（スコットランド）を代表する現役の作曲家、ジェームス・マクミランによる歌曲。次の「**ダニー・ボーイ**」は有名なアイルランド民謡。そして、オルガンソロでヘンデルの「**ハレルヤ**」

最後に、日本の唱歌から「**もみじ**」と「**ふるさと**」（共に作詞が高野辰之、作曲は岡野貞一）、そしてスコットランド民謡のメロディから日本の歌になった「**蛍の光**」と「**故郷の空**」

「日英文化季間」公式イベントにふさわしく、古典、民謡から現代曲までこの数百年のイギリスの音楽を網羅し、日本語の歌もあり、聴く人を楽しませるイギリス的ショーマンシップを感じさせるプログラムである。

※テキストの無断転載・無断使用を固く禁じます。
(公財)福井県文化振興事業団